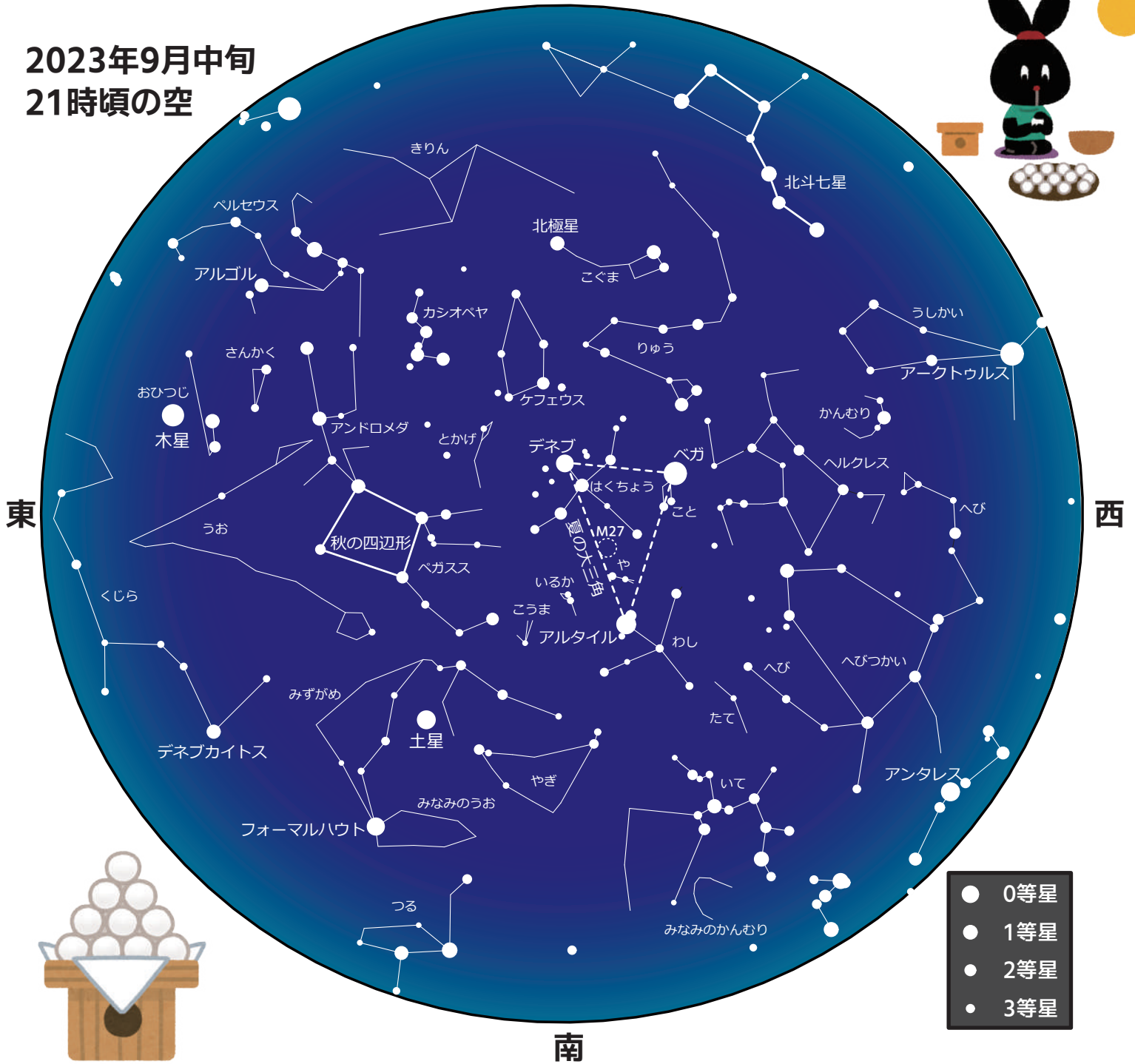


阿南市科学センター 9月の星空案内

北

2023年9月中旬
21時頃の空



9月に入りまだまだ暑さが残る時期ですが、夜空にはまだ夏の星座が見えています。頭の真上近くから、やや西よりに輝く明るい星を3つ結んでみると、**夏の大三角**が見えています。夏の大三角は**こと座のベガ**、**わし座のアルタイル**、**はくちょう座のデネブ**からなる大きな三角の形です。一方頭の真上から東よりの空には秋の星座たちが見えています。秋の星座の目印は**秋の四辺形**と呼ばれる星並びです。秋の四辺形は全て2等台の明るさの星からできており、全て1等星の夏の大三角と比べると、少し控え目な印象です。この秋の四辺形は**ペガスス座**の胴体の部分となっています。さらに秋の四辺形の西側2つの星をのばしていくと**フォーマルハウト**が見つかります。フォーマルハウトは秋の星座の中で唯一の1等星であることから、**秋の一つ星**とも呼ばれています。しかし、今年の秋は秋の四辺形とフォーマルハウトの間に見ごろをむかえている**土星**も輝くため、「**秋の二つ星**」が楽しめそうです。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて 【毎週土曜日開催 / 19時～, 20時～, 21時～】
阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <http://ananscience.jp/science/>

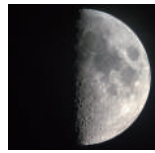
■ 9月の月の満ち欠けと惑星について



下弦
7日



新月
15日



上弦
23日



満月
29日

9月の天体観望会で月が見える日時は？



9/2(土) 21時の回後半で観察可能



9/23(土) 19時、20時の回がオススメ

水星：22日に西方最大離角をむかえ、日の出前、東の低空に見える。【約 -0.3 等】

金星：日の出前、東の空やや低くに見える。【約 -4.5 等】

火星：日没後、西の空のごく低空に見える。【約 1.7 等】

木星：20時半ごろ東の空から昇り、一晩中見られる。【約 -2.7 等】

土星：観望好機。日没後より見え、未明に西の空へ沈む。【約 0.5 等】

※惑星の等級は中旬頃の明るさ。水星のみ 22日ごろの明るさ。



9月19日には
金星が最大光度をむかえ
とても明るく見えるよ！



■ 天文の話題・見ごろの天体など

★9月29日 中秋の名月

秋といえばお月見の季節ですが、今年は9月29日が中秋の名月の日にあたります。今年は、と述べた通り、中秋の名月の日付は毎年同じ日付ではありません。中秋の名月の日付は旧暦を使用していることによります。旧暦は月の満ち欠けをもとにした暦であり、現在使用されている太陽の動きをもとにした暦とは異なります。その旧暦8月15日の晩の月が中秋の名月にあたります。

中秋の名月の日は、満月や満月前後の月が見られるため、模様の観察がオススメです。日本ではウサギが餅つきをしている姿だと例えられることも多いですが、海外ではライオンの姿や、カニ、女の人の横顔などの姿に見られることもあります。みなさんはどのような姿に見えるでしょうか、ぜひ本物の月を見て、思いをめぐらせてみてください。また、科学センターでは9月29日に中秋の名月観望会を行います。ぜひご参加ください。



写真1. 満月 (撮影 A.Suzuki)

★M27 あれい状星雲 (こぎつね座)

夏の天三角の中にはこぎつね座があり、その方向にあれい状星雲と呼ばれる天体があります。「あれい」とは、筋肉を鍛える為に使う鉄アレイのことですが、みなさんはどのような形に例えるでしょうか。

さてこのあれい状星雲は、惑星状星雲という種類の星雲で、星が最期をむかえている姿です。惑星状星雲とは、土星や木星などの惑星とは関係がなく、その姿がまるで惑星のように見えることからその名がついています。星の最期は星の質量によって決まりますが、私たちにとって最もなじみがある星である太陽の最期も、惑星状星雲になると考えられています。科学センターにある25cm望遠鏡ではぼんやりとしたシミのような姿に見えますが、113cm望遠鏡では白黒の蝶のような形に広がる姿が分かります。いずれも月明かりがない日にご覧いただくのがオススメです。



写真2. あれい状星雲 (撮影 A.Suzuki)